

今日のキーワード 好調な米国の「投資適格債」市場（米国）

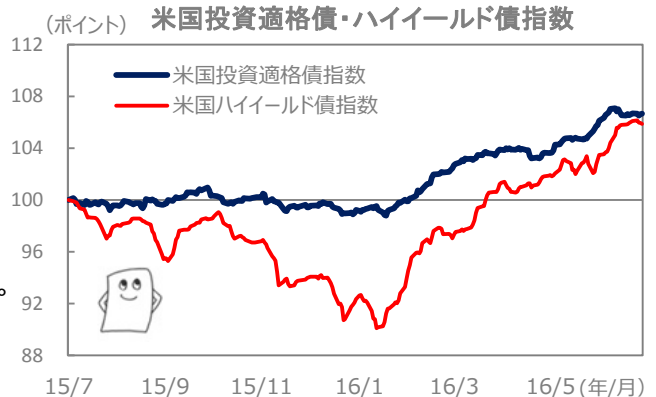
「投資適格債」とは、発行体の債務不履行（デフォルト）リスクが低く、信用力の高い債券のことです。格付機関は債券の元金金の支払いの確実性を評価していますが、ムーディーズ社の場合はBaa格以上、スタンダード・アンド・プアーズ社の場合はBBB格以上に格付した債券のことを「投資適格債」といいます。一方、それよりも低い格付のものを投機的格付債、あるいはハイイールド債と呼びます。

ポイント1 増加する社債発行 「投資適格債」の発行額は過去最高を更新中

- 米証券業金融市場協会（SIFMA）の統計によれば、2015年の社債発行額は1兆4,937億ドル（約157兆円、1ドル=105円で換算）となり、4年連続で史上最高を記録しました（転換社債を除く）。このうち「投資適格債」の発行額は過去最高の1兆2,330億ドル、ハイイールド債は2,607億ドルでした。
- 2016年1～6月累計の発行額は全体で8,319億ドルと前年同期の8,860億ドルを僅かに下回っていますが、「投資適格債」は同7,042億ドルを上回る7,116億ドルとなっています。

ポイント2 良好なパフォーマンス ハイイールド債も持ち直し

- 社債の発行側の要因としては、景気拡大の持続に伴い企業の資金需要が増大していることが指摘できます。一方、需要側の要因は、世界的に金融緩和が進み、国債金利が低下したため、少しでも利回りの高いものに資金が流入していることが挙げられます。参考までに直近の利回りを見ると、「投資適格債」が約3.3%、ハイイールド債が約6.6%、米10年国債が約1.6%となっています。
- この資金流入を受け、米国「投資適格債」のトータルリターン指数は、今年に入り堅調な推移となっています。より利回りの高いハイイールド債も持ち直してきました。



(注1) データの期間は2015年7月31日～2016年7月28日。2015年7月31日のデータを100として指数化。

(注2) 投資適格債、ハイイールド債ともにBloombergトータルリターン指数。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 「投資適格債」市場の好調は継続しよう

- 低水準の国債利回りと景気・企業収益の拡大が「投資適格債」を含む社債市場の追い風
米国の経済は順調に成長し、企業収益は拡大する見込みです。一方、物価が落ち着いていることから、利上げのペースは緩やかになる見通しであり、長期金利は低位で安定的に推移すると予想されます。これらを踏まえると、社債市場へ引き続き資金が流入する見込みです。

ここもチェック! 2016年7月28日 米国の金融政策（2016年7月）
2016年7月27日 「労働市場」の改善は進んでいる？（米国）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。